

この度の九州・中国地方を中心とした記録的な豪雨により、被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

現在会員登録数 3,378 人さま。次回は 8 月 1 日に特別号 NO.4、8 月 20 日に NO.120 を発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----■
【1】お知らせ
■-----■

●「第37回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#37boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第34号の原稿を募集しています。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第33号」を販売しています。

発行：当財団 2020年3月 A5判 182頁 1600円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

<クレジットカードでご寄付いただけるようになりました>

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

「YouTube 版 本の海大冒険」（絵本編、読物編、YA編、科学編）は、毎週金

曜日に2本ずつ配信中！また、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ！」は、毎月10日に配信。ぜひご覧ください。

チャンネル登録もお願いいたします。

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

<大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO>

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■

【2】コラム

■ ----- ■

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Yukiko's Talk

『14歳の水平線』 柳月美智子/作 講談社青い鳥文庫 講談社 2020年6月
(底本：双葉文庫 2018年) 対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学2年生の加奈太は、児童文学作家の父と二人暮らし。夏休みに父の故郷である天徳島へ帰り、中2男子6人だけのキャンプに参加する。最初は3人ずつに分かれていたが、けんかを経てお互いの違いを理解するようになる。連れてきた父征人は、14歳の時、この海で父を亡くしており、キャンプを主宰する孝俊は、同級生だった。父の回想も並行して描かれる。

F：さわやかなひと夏の少年たちの物語として一気に読みました。

Y：キャンプの冒頭に、キャンプ主宰者の孝俊が子どもたちに「最終日に何か見つけること」と言い、最終日に、読者の予想どおり「友達」という子がいますが、作品を読むとその言葉に説得力があるように思えるところが「青春物語」ですね。

F：タイトルにある「14歳の水平線」に納得。中学生自体が大人と子どもの間の微妙な時期ですが、その中でもピカピカの中学1年生でも、進路が決まっていく中学3年生でもない、中途半端な時期に、海に囲まれた島で男子6人だけでキャンプをする。

Y：主人公たちは水平線から太陽が昇るのを見ることで、自分たちの小ささを感じ、未来を見通したいという思いを抱く。そして、閉じられた期間限定の友だちだからこそ、自分の悩みを率直に打ち明けることができます。

F：加奈太の経験と父の回想が交互に描かれる手法もうまいと思いました。これは、時代が変わっても、14歳の考えることや感じることは同じということかしら。

Y：けんかしたり、ギクシャクしたりする友だち関係や恋愛感情は共通しているけれど、独立性の強かった島が山村留学を受け入れるようになったり、加奈太が離婚した父と二人で暮らしているという家族のありようなど、時代によって変わるものもあるということが描かれているように思いました。

F：中学生たちの不安な気持ちや戸惑い、恐怖などの感情が海へダイビングする経験などの具体的な身体感覚を通して描かれていたこともこの作品の魅力だと思いました。それによって大人読者も、自分の14歳をリアルに思い出せるように思います。

Y：ドゥヤーギーという妖怪を怖がる場所もおもしろく、加奈太が、学校では友だちにならないような少年たちと友だちになってそれぞれのよさを発

見していく過程もユーモラスに描かれていました。思春期の心理を描くのがうまい榎月美智子さんらしい作品だと思いました。

* 今回のゲストは武庫川女子大学の福本由紀子（F）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第59回「イギリス海岸」

そこはたびたび海の渚

前回の「毒蛾」（当メルマガ NO.118）のおしまいで、巡回視学官の「私」は、「有名なコワック大学校」をおとずれます。それは、「賢治が奉職していた当時、「桑っこ大学」と揶揄されていた花巻農学校だと言われています。」とは今回の説明です。

〈夏休みの十五日の農場実習の間に、私どもがイギリス海岸とあだ名をつけて、二日か三日ごと、仕事が一きりつくたびに、よく遊びに行った処がありました。

それは本とうは海岸ではなくて、いかにも海岸の風をした川の岸です。北上川の西岸でした。東の仙人峠から、遠野を通り土沢を過ぎ、北上山地を横断して来る冷たい猿ヶ石川の、北上川への落合から、少し下流の西岸でした。〉

「イギリス海岸」の書き出しです。イギリス海岸、これも、「毒蛾」のマリオ（盛岡）やハームキヤ（花巻）のような、あだ名なのです。賢治は、あちこちの場所をこうしたあだ名で呼んだのですが、その代表が、この連載コラムのタイトルでもあるイーハトヴでしょう。（イーハトブ、イーハトーブなど、ほかにも6種類の表記があります。）童話集『注文の多い料理店』の広告ちらしでは、「イーハトヴは一つの地名である。」「じつにこれは著者の心象中に、このような状景をもって実在したドリームランドとしての日本岩手県である。」としています。現実を「ドリームランド」に見立てる想像力こそが賢治童話の世界を立ち上げます。

作品には、その川岸をイギリス海岸と呼ぶ理由が述べられています。——「なぜならそこは第三紀と呼ばれる地質時代の終り頃、たしかにたびたび海の渚だったからでした。」

「イギリス海岸」は、童話というより、賢治が「桑っこ大学」である農学校に勤めていた時期の記録という趣の散文です。生徒たちといっしょの水泳や、泥岩に残っていた「第三紀偶蹄類」の足跡の標本採取や、作中の「私」は、はつらつとした姿を見せています。それでも、川でおぼれた人を救助する役目の男が登場したりして、それは、「銀河鉄道の夜」のカンパネルラの水死のモチーフを連想させたりするのですが。

賢治には、自身が作詞作曲した「イギリス海岸の歌」という歌曲もあって、「なみはあをざめ支流はそそぎ／たしかにここは修羅のなぎさ」と歌われます。（馬車別当）

（本文の引用は、角川文庫版『イーハトーボ農学校の春』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 13

「あのさ、たたかうってことをおぼえないかぎり、あんたは自分の顔を持つて
るわけないわ。ほんとうよ」「はい、そのとおりです」
こういってニンニは、おどおどと後ずさりしました。

(「目に見えない子」 『ムーミン谷の仲間たち』 ムーミン全集 [新版] 6
トーベ・ヤンソン/著 山室静/訳 講談社 2020年4月 p.167)

ある雨の日、トゥーティッキは、ムーミンの家に少女ニンニを連れてきます。
ニンニは、「氷みたいに心がつめたくて、皮肉屋」のおばさんに虐待され、姿
が見えなくなってしまう、ついにおばさんに追い出されてしまいます。そこ
でトゥーティッキはニンニをムーミン一家に預けることにします。ムーミン
の家で、ニンニははじめ、おばさんがつけた鈴の音でだけ、居場所がわかりま
したが、一晩眠ると足が見えるようになります。そして、ムーミンママがワン
ピースとリボンを縫ってプレゼントすると、体が見えるようになります、話もで
きるようになります。

ムーミントロールとミイは、ニンニと一緒に遊ぼうとしますが、ニンニはム
ーミンたちの言われたとおりにするものの、遊ぶことができません。そのと
き、ミイが遊ぶだけでなく、「おこることもできやしないんだわ。それがこの
子のわるいところよ」ということばに続いて言ったのが冒頭のことばです。

顔を持つ(人間らしくある、自分らしくある)ためには、他人の優しさを受け
止めるだけでなく、怒りの感情を持っていることを認め、それを必要なとき
に表出できることが必要である。ヤンソンのこの物語はニンニのエピソード
を通して人間とは何かを語っています。

最後にニンニの顔が現れたエピソードも、ヤンソンが描いたニンニの顔の表
情もとても魅力的で、怒りの他にも人間に欠かせない感情があることを伝え
ています。(Y)

《4》 行って来ました！

あべのハルカス美術館で8月30日まで開催されている巡回展「ムーミン展」
に行ってきました。作者のトーベ・ヤンソン(1914-2001)による挿絵やスケ
ッチ、カラー原画、人形、食器など約500点が展示されています。展示は、第
1章「ムーミン谷の物語」、第2章「ムーミンの誕生」、第3章「トーベ・ヤン
ソンの創作の場所」、第4章「絵本になったムーミン」、第5章「本の世界を飛
び出したムーミン」、第6章「舞台になったムーミン」、第7章「日本とトーベ
とムーミン」で構成されています。

第1章は、「ムーミン」シリーズ全9話の挿絵やスケッチ約240点が展示され
ていて、ひとつずつのサイズは小さいですが、とても見ごたえがあります。最
初の2作はインクの濃淡で描かれていましたが、3作目からペンの細かい線で描
くようになったそうです。第2作の『ムーミン谷の彗星』は、最初に出版され

た 1946 年の絵と、線画で描き直された 1968 年の決定版の両方を見ることができます。トーベは線画だけで描いた挿絵は画家としての前進だと自負していたそうです。下絵のスケッチと挿絵に使われた原画が並べられ、試行錯誤がうかがえます。作品ごとに、画法を試したり、構図や線のタッチが違ったり、ムーミンや仲間たちの姿がだんだん変化していったりするのも興味深いです。

第 5 章には、銀行などの広告や、カードやボードゲームや着せ替え人形などのカラー原画、布のための図案、ムーミンの人形や、陶器のフィギュアなど、ムーミンの世界が広がります。第 7 章では、トーベの絵と歌川広重や葛飾北斎の浮世絵が比較されていて、荒波や激しい雨や雪深い谷などに共通点を感じます。

これまで、何度かトーベ・ヤンソンやムーミンに関わる展示を見てきましたが、第 1 章の原画の多さには目をみはるものがあり、線の美しさに原画の力を感じました。油絵も描いていた芸術家ヤンソンならではの挿絵だと改めて思いました。(K)

■ ----- ■
【 3 】 全国のイベント紹介

● 「シヨーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」

会 期：6 月 27 日(土)～8 月 30 日(日) 水曜休館

時 間：10：00～16：00 料 金：有料

場 所：安曇野ちひろ美術館

主 催：ちひろ美術館、信濃毎日新聞社

監 修：シヨーン・タン、ちひろ美術館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【 4 】 プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『14歳の水平線』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.119 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月12日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

地元の子どもたちのみならず、まちじゅうが楽しみにしていた地車と布団太鼓の夏祭りが今年中止。一時、担ぎ手が少なくなって存続が危ぶまれていた時期もあったようだが、凝った飾りつけや揃いの装束と、このところずい

ぶん賑やかに。皆、来年こそはと心に誓い、この難局を乗り越えようと頑張っています。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
